

# 望月よしひさ

## 長野県議会議員としてスタート!



### 11月定例会で、台風19号災害からの復旧と再発防止策を提言しました。

令和元年台風19号災害で被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。

穂保での決壊と浅川の内水氾濫により、長沼・豊野地区では未曾有の被害が生じました。また、あまり報道されていませんが、篠ノ井でも1,701軒の浸水被害を受けました。

これは長野市内の住宅被害4,021軒の4割以上を占め、松代の623軒と合わせると市内の6割近くが南部での被災です。(令和元年12月13日時点の長野市把握による)

地元県議として、信濃川水系河川の一刻も早い整備を国に、県に、強く要望し続けてまいります。

#### 質問 堤防と排水機場の改良復旧について

穂保の決壊は越水によるものだったが、同じく越水により決壊寸前だった箇所は他にも多数ある。破堤、破壊された堤防の改良復旧と弱小堤防の強化が必要であり、信濃川水系河川整備計画の見直しと千曲川堤防の強化、立ヶ花狭窄部、戸狩狭窄部の開削、無堤地区の解消を引き続き国に強く求めるとともに、県管理河川においても、越水等に耐えられる堤防の整備が必要。裏法面を保護する耐越水工法等の採用は考えられるのか。また、今回の内水氾濫においては、浸水により機能停止した排水機場もあり、千曲川の水位が減少したからも排水できず被害が拡大した事例もあった。今後、排水機場の復旧や新設に当たっては浸水への対策が必要と考えるがいかがか。

昨年四月の県議選で初当選させていただいてから一年が経過しました。

この間、令和元年東日本台風や新型コロナウイルスのまん延等、県民生活に多大な被害・影響を与える出来事があり、為すべき責任の重さを痛感しております。

県民の代表として、皆さまの想いを県政に届け、安全で安心して暮らしていける地域社会を創り、子ども達の未来を守る活動にこれからも邁進してまいります。



答弁(建設部長)

堤防の構造は土による盛土が原則であるが、昨今、全国各地で洪水による破堤が発生していることもあり、越水しても決壊を遅らせることで被害を最小化し、十分な避難時間を確保する等の観点から、粘り強い堤防としていく方針が国から示され、民間企業においては堤防強化に関する様々な工法が開発されている。今後は、破堤による社会的影響が大きい箇所から堤防強化とその工法について検討を進めるとともに、国に対しても同様に堤防強化について検討するよう要望していく。排水機場の耐水化については、止水壁の新設またはかさ上げ、防水扉の新設、電気機械設備のかさ上げ等の方法により、被災した際の浸水高さを対象とした防水・耐水処理が復旧の対象となる。また、新たに排水機場を整備する場合には、過去の浸水実績等を勘案し、浸水による被害を防止する構造とすることが基本と考えている。排水機場の浸水に対する安全性の確保は、周辺地域の浸水被害軽減のために重要なので、復旧に際しては機能アップをさせる改良復旧を実施する。

#### 質問 治水安全度について

内水氾濫による被害が発生した県管理河川の治水安全度は、例えば浅川では100分の1年だが、統一した基準のもとに設定されるべき。多数浸水被害が生じた岡田川、聖川、蛭川、神田川等においても優先順位を考慮しつつ、

少なくとも浅川と同一基準で順次整備を進めるべき。

#### 答弁(建設部長)

支川の治水安全度については、想定氾濫区域内の人口、資産などによる重要度や、合流先となる河川の治水安全度とのバランス、さらには、その河川が築堤河川か掘込河川かなどの河川形状、過去の災害履歴等により各支川ごとに決定している。河川改修完了までには長い期間がかかるため、ほとんどの支川では目指すべき治水安全度に到達しておらず、順次安全度の向上を図っている段階。今回の浸水の主な要因は千曲川本川の水位上昇によるものと考えており、再度災害防止のためには千曲川の水位低下対策が重要である。今後の治水対策としては、現在検討中の緊急治水対策プロジェクトの中で千曲川の抜本的な水位低下対策について県としても積極的に対応するとともに、支川についても、その河川が有する特徴や課題を的確に捉え、必要な対策を着実に進めることで、地域の方々の安全、安心の確保に努めていく。

#### 質問 治水安全度についての再質問

浅川の治水安全度は100分の1年に対して、聖川、蛭川、神田川の治水安全度は50分の1年。そして、今回大きな被害が生じた岡田川に関しては30分の1年。それで流域の安全は守れるのか。また、各流域の住民の理解は得られるか。

#### 答弁(建設部長)

全ての河川を高い水準に整備することは望ましいと考えているが、財政面の問題や、改修には用地買収を伴うことから、段階的に整備を行っている状況。提案の支川については、その河川が有する特徴や課題を的確に捉え、対策を着実に進めていきたいと考える。

#### 質問 浚渫、遊水地や雨水調整施設整備について

河床浚渫は最も安価な水害対策であり、早くかつ継続的に進めるべき。また、遊水池や雨水調整施設の整備もあわせて進めるべきだが、物理的、財政的な課題はあるのか。

#### 答弁(建設部長)

浚渫については、平成30年度2月補正から防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策により県内134河川において実施しているところ。浚渫は、浸水被害を防止、軽減する上で非常に重要と考えており、本事業の令和3年度以降の継続について国土交通省へ要望していきたい。遊水池や雨水調整施設について、洪水時の流水や雨水を一時的に貯留し、河川の水位低下に資する施設であり、治水対策、流域対策として有効なものと考えている。これらの施設により効果を発揮させるためには、広範な面積の土地が必要であり、流域の市町村や地権者の協力と理解が必要であること、また、施設を完成させるためには短期間に集中投資する必要があることなどが課題であると認識している。

#### 質問

信濃川水系の水害対策は、流域全体を通じた総合的、抜本的対策が必要だと考える。千曲川本川の整備はもちろんのこと、支川における堤防や排水機場の整備、遊水池の整備における農地への地役権設定や雨水調整施設整備における個人、企業の協力など、財源の確保、多部署間の調整、市町村との調整が必要となり、解決すべき課題もあるため、行政の長である知事のリーダーシップに負うところが大きいと考える。今後の取り組みにおける知事の姿勢について、期待を込めて伺う。

#### 答弁(知事)

県民の安全を守っていくということが我々県行政の大きな役割の一つ。今回、19号災害を踏まえて、この治水対策についても改めてしっかりと向き合っていかなければと思っている。先般、千曲川流域の市町村、国、県と共同で信濃川水系緊急治水対策会議を開催した。この場において、緊急治水対策プロジェクトを策定して、総合的な治水対策を進めていくことを確認した。引き続き、国や市町村とも十分連携をとりながら、地域の皆様方の御意見も十分伺いながら、千曲川本川の水位低下対策を進めることに加えて、支川の内水氾濫対策等についても対応していく。

# 信濃川水系緊急治水対策 プロジェクトが策定されました！

令和元年台風第19号による甚大な被害を受け、国、県、流域市町村が連携し、「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」が取りまとめられました。

概ね5年間で「再度災害防止・軽減」、「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」を目指し、令和9年度までに千曲川本川からの越水等による家屋部の浸水を防止するための整備を進める予定です。

## 河川における対策

全体事業費：約1、227億円  
 災害復旧：約214億円  
 改良復旧：約1、013億円  
 事業期間：令和元年～令和9年度  
 目標

## 【令和6年度まで】

台風第19号洪水における  
 ・千曲川本川の大規模な浸水被害が発生した区間等において越水等による家屋部の浸水を防止  
 ・信濃川本川の越水等による家屋部の浸水を防止

## 【令和9年度まで】

台風第19号洪水における  
 ・千曲川本川からの越水等による家屋部の浸水を防止  
 対策内容 河道掘削、遊水地、堤防整備・強化

## 流域における対策

ため池等既存施設の補強や有効活用  
 ・田んぼダムを活用した雨水貯留機能の確保  
 ・学校グラウンドなどを活用した雨水貯留施設



←千曲川堤防越水箇所の被害状況を現地調査で説明。



→小森第一排水機場も冠水し機能停止。

排水機場等の整備、耐水化の取り組み  
 ・防災拠点等の整備

## ソフト対策

「まちづくり」や住まい方の誘導による水害に強い地域づくりの検討  
 ・マイ・タイムラインの普及  
 ・公共交通機関との洪水情報の共有  
 ・住民への情報伝達手段の強化

また、国では、緊急浚渫推進事業債を創設し、令和2年度から5年間、地方自治体が行う浚渫に対し充当率100%で70%の交付税措置を行うことになりました。本県では、令和元年度2億円だった浚渫予算を20億円にして対応します。要望した方向で治水対策が進んでいることを嬉しく思います。

地域の安全のため予算が有効に活用されるよう、地元議員として声を大にして提言してまいります。

## わが町一般質問にて

### 令和元年6月定例会一般質問

●通学路の安全対策全般と、辰巳新道の改修について、子ども達の安全のため、早急な整備を進めるよう強く求めました。

●河川の防災対策として、岡田川の排水機場の整備と支障木の伐採・河床の浚渫について、早急な機場整備と継続的な河床浚渫・支障木の伐採を求めました。

●岡田川に排水機場があれば、今回の浸水被害があれほど多大でなかったことを思うと、整備が間に合わなかったことが残念でなりません。

●過労死レベルにある教員のワーク・ライフ・バランスの実現と児童・生徒の学力向上、より良い育ちのための、教員の働き方改革と担任の責任について、子ども達の学び・育ちのためにも、教員の過重労働解消のためにも、働き方

改革と学校現場への教員の増員を求めました。

### 令和元年9月定例会一般質問

●幼児教育・保育の無償化について、市町村や施設での事務作業の煩雑化が懸念されるため、県の支援を求めると共に、国に対し地域の実情に応じた子育て・子育て支援策となるよう要望するよう質問しました。

●MICE誘致促進事業補助金について、MICE(マイス)とは、企業等の会議(Meeting)、報奨・研修旅行(インセンティブツアー)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字を使った造語で、その経済効果から近年誘致合戦が過熱化しています。令和元年度から始めた制度ですが、上限100万円では他県に太刀打ちできないことから増額や国内全国大会も対象にするよう提案しました。

## 農政林務委員会での質問

一年目は、私が農業関係議員であることと森林環境譲与税元年であることに鑑み、農政林務委員会に所属しました。委員会における主な質問は次の通りです。

### 【農政関係】

- 中山間地域農業直接支払事業への支援と技術指導
- 有害鳥獣対策として減容化装置の提案
- 輸出に関しての農家手取り向上対策
- 新品種の県外流出対策
- スマート農業の推進と導入にあたっての採算について
- 農業次世代人材投資事業の予算確保について
- 技術職員の確保と市町村への派遣
- 排水機場の浸水対策と遠隔操作導入
- 揚水機場や頭首工の復旧

### 【林務関係】

- 農作業の人材確保策を提案
- 農福連携推進
- 農林水産業のブランド化条例
- 森林環境譲与税の活用について
- 林業大学校男子寮建て替えに当たっての個室化
- 林業大学の定員増



## 編集後記

県議1年目の委員会は農政林務委員会に所属し、活動しました。長野市議会議員として3期12年務めさせていただきましたが、市政と県政では違うことも多々あり、戸惑うことも多かった1年でした。これからの1年は、危機管理建設委員として、危機管理の推進や県道・河川の整備・治山を進め、安全で安心して故郷に住み続けられる地域社会づくりのために尽力してまいります。現場重視で活動していますが、広い長野県、まだまだ現状を把握していない地区も多々あります。解決に向け、全力で頑張っておりますので、ご意見・ご要望を、ぜひ、お寄せください。

## 望月義寿事務所

〒388-8005 長野市篠ノ井横田558  
 ■ FAX 026-213-4468  
 ■ http://motiduki.info/  
 ■ E-mail motiduki@mti.biglobe.ne.jp